

この東大見学会を通して、私のこれまでの考え方が大きく変わり、新しいことをたくさん学ぶことができたと思う。

私は商事という会社に対して、ただただ自分の会社の利益だけを考えて巧みに仕事をしているというイメージを持っていたが、社員の方々の説明を聞いて、社会のためにも仕事をしているということがわかった。中でも震災の被災地への支援については、助成金の寄付やボランティアの派遣など、会社の利益が全くないような取り組みをしていて、一流企業はこのようなところも一流なのだと感じた。また、社員の方と話してみても、一番印象に残ったのは「まず自分に矢を向ける」という言葉だ。コミュニケーションをうまくとるには相手を気遣い、相手を本質的に分析することが大事であると教えて下さった。自分は、相手のことをあまり考えずに、相手に矢を向けてしまうことがよくあるので、ここで学んだことを実践していきたいと思う。また、ディレクトフォースの方は高校生のときには勉強も部活もしっかりと行い、友達とも真剣に関わるべきだとおっしゃっていた。二高にはそのようなことが思いっきりできる環境があるので、これからも充実した高校生活を送ろうと思う。また、意識的でも笑顔になることで周りも明るくなり、今を楽しむことができるということも学んだ。確かに、三菱商事の社員の方や、その後に行った企業の方も笑顔で接してくれて、とても話しやすかった。このことは社会人になってもとても大事なことだと思うので、しっかりと心に留めておきたい。

次に私達の班はライオンの平井研究所を訪れた。ライオンは昔から今までずっと世界の技術の最先端で研究をし、人のため、環境のためにもものづくりを通して社会貢献をしていて、自分も将来、そのような形で社会に貢献をしたいと思った。また、ライオンの製品を見ると、家にあるものばかりで、改めてすごい会社なのだと感じた。そして、研究者の方と話して、研究の心構えなどを知ることができた。特に印象に残ったのは、十分に企画をしていても、研究が成功するのは半分くらいということだ。だが、失敗したときのデータが後に生きてきたり、失敗から予想外な発見があることもよくあるとおっしゃっていて、やはり失敗から学ぶことは大事なのだと分かった。また、研究者になっても学会などで英語を使う機会はあると言われたので、理系だからといって英語をおろそかにせず、話す英語をしっかりと身につけたいと思う。三菱商事の方も言っていたが、大学で何をしてきたかということが肝心ののだと分かった。自分の強みを作ることは就職でも役に立つと思うので、その強みを作れるような大学に行きたいと思った。また、私達と話してくれた研究者の方は毎日実験できることが嬉しく、仕事が充実していると言っていた。自分の好きなことを仕事にできるというのはとても憧れるし、素晴らしいことだと思うので、そのような仕事に就けるように努力しようと思った。

この2つの企業を訪問して、どちらの企業の方も挨拶もしっかりと行っていて、人に考えをわかりやすく伝える力もとても高く、そして他人への気配りができ、社会で活躍できる人はこのような人なのだとわかった。また、どちらの企業の方も仕事にやりがいを持っている気がした。

夜のOBOGとの懇談会ではまず、二高の先輩たちがそれぞれ様々な人生を送っていることに驚いた。今までは大学を卒業するまではみんな同じように暮らすものだと思っていたが、大学を休学して旅をしたり、会社を立ち上げたりして、とても衝撃を受けた。また、東大の経済学部の2人のOBと話して、文系のゼミのことや授業のことなど、大学での生活について聞いて、大学は高校より自分の学びたいことを学べて、学生にとっても自由が与えられていると感じた。また、高校で部活に打ち込むことで集中力や忍耐力を鍛えると言っていたので、部活は大変でも、中途半端にならず、一生懸命やりたかった。また、2人とも勉強は自分に合った方法であるのがよいと言っていたので、いろいろな方法を試してみて、自分の勉強法を確立したいと思う。そして、東大の良い所として1、2年のときに、文系理系関係なく講義を受けることができ、大学に入ってから本当に自分のやりたいことを探すことができるということも言っていた。実際に文科3類から経済学部に行った人もOBもいて、専門的な研究をする期間は短くなるけど、その制度はとても魅力的に感じた。また、早い時期から難関大学への意識を持つことが大事だと言われたので、今後後悔をしないために、今からちゃんと勉強をしようと思った。

そして、一人の OB の言った、「変化を恐れない」という言葉が印象に残った。変化を恐れていては前に進むことはできないと思うので、何事にも挑戦していこうと思った。東大でしていることや、高校時代のことの話をして下さったり、私達へのアドバイスを下さったりして、とてもためになったし、楽しい時間だった。

東大のオープンキャンパスでは、レンガ作りの図書館がまず目に入って、東大がとても歴史のある学校であることを感じさせられた。安田講堂なども現代の日本にはないような雰囲気だった。最初に理学部天文学科のパネル展示を見に行ったところ、世界で一番標高が高い所に望遠鏡を建てるという計画を説明してくれて、東大では世界の最先端の研究をしているということを改めて実感した。次に理学部化学科の研究室を見学したら、分子レベルの研究をするための機械があって、それは教授が自ら作った機械であると説明してくれた。そのように世界的にも優れた教授と研究できるというのも東大の魅力の1つだと思った。また、大学説明会に参加して、東大は学生が海外での経験を増やすための制度を作るなど、校外での経験も重視していることが分かり、東大は学問をするだけでなく、社会で活躍できる人間になるための環境が充実していると感じた。また、工学部の説明も受けて、東大は東北大と同じように、大学院に進む人がほとんどであることを知った。今まで、大学院は限られた人のみが行く場所だと思っていたので驚いたが、今の時代は大学でしっかり研究をしていかないと社会でやっていけないのかと思った。また、今は博士課程を終えてから就職する時代と言われて、まだまだ勉強は続くのだと思った。また、話を聞いていると、教授自身が東大にとっても自信と誇りを持っているように聞こえた。8月6日のオープンキャンパスは工学部の企画がやっていなくて、よく分からない部分はたくさんあるが、東大は専門的な研究をし、いろいろな経験をするのに、最適な場所だと感じた。しかし、東大だけが大学ではないので、他の大学もよく知って、いろいろ見た上で大学を決めたいと思う。

この東大見学会を通して、社会で活躍できる人は、人としても素晴らしいということ、どこの大学に行くということより、行った大学で何をしたかが大事だということ、世界における経験の大切さを特に学ぶことができたと思う。また、東大見学会を通して、自分の視野が広がり、将来について深く考えることができたのでよかった。ここで学んだことを今後の人生に生かしていこうと思う。また、自分が大学についてほとんど無知だったことも分かったので、これからも情報を集めたりして、大学選びをしていきたい。企画をしてくださった先生方、忙しいところ時間を割いて下さった企業の方々、本当にありがとうございます。